

2008年3月31日

日本原子力研究開発機構 理事長 岡崎俊夫様
東濃地科学センター所長 大沢正秀様

埋めてはいけない！核のゴミ実行委員会・みずなみ
核のゴミから土岐市を守る会
土岐市 早川しょう子
放射能のゴミはいらない！市民ネット・岐阜

抗議文

日本原子力研究開発機構（以下、「原子力機構」）の担当者におけるヒ素溶出の説明で、環境保全協定（以下、「協定」）を骨抜きにするかのような発言があり、協定に対する機構の姿勢を疑わざるを得ません。

瑞浪市は2008年3月5日、超深地層研究所の環境保全協定に基づく行政検査の結果

- ・ズリからヒ素が環境基準を超えて溶出したこと
 - ・事業者である原子力機構はズリを協定に基づき処理する方針であること
- 等を発表しました。

兼松（放射能のゴミはいらない！市民ネット・岐阜）は3月7日、地域交流課に電話し、超深地層研究所主立坑の掘再開時期、換気立坑の湧水止めグラウト範囲とグラウトに使った普通ポルトランドセメントの量、地下200mの設置された排水設備の数と容量等を問い合わせました。

その際、兼松は主立坑ズリからのヒ素溶出は、事前にボーリングコアの分析調査などで予測できなかったかと質問しました。

ところが職員は、「ヒ素の量は0.019mg/lです。ミリグラム/リットルです！この程度は米からも検出されています。」と、尋ねてもいない溶出数値の少なさをことさらに弁解しました。私はヒ素溶出濃度の多少とその評価を尋ねたものではありません。それにも関わらず職員は敢えて、米と比較して溶出量が低く問題ないものであるかの如く説明しました。私にした弁解は新聞社や住民にもされたであろう事は容易に想像できます。

しかし協定の数値を超えたものについて、少ないことを強調することは岐阜県や瑞浪市との協定を骨抜きにしかねない由々しき発言です。

そもそも超深地層研究所のフッ素やホウ素、ヒ素や鉛は超深地層研究所の地質に由来するもので、現在の場所で立坑を掘削する限りその影響は避けられません。避けられないからこそ原子力機構は2005年11月14日に岐阜県及び瑞浪市と協定を結び、環境基本法や管理目標値を超過した場合は、関係自治体に通報し、必要な措置を講ずることを約束しました。

繰り返しますが、協定の数値を超えたものに対して溶出量の少なさを強調することは、岐阜県や瑞浪市との協定を骨抜きにしかねず、協定に対する原子力機構の姿勢を疑わざるを得ません。

原子力機構は岐阜県、瑞浪市との協定の意義を改めて確認すべです。

以上

連絡先